

赤おにと青おに

どこの山か分かりません。山のふもとの村の外れに、家が一けんたっていました。そこには、やさしい、すなおな赤おにが、人間たちとなかよくくらしていました。

——わたしは、こうして人間たちのなかまになってくらしているが、青おには、今ごろどうしているだろう。わたしはこのままでいいのだろうか。

赤おには、いつもそう思っていました。

赤おにの家には、毎日、村人たちが集まってきました。そして、みんなでおいしいおかしを食べ、お茶を飲み、世けん話に花がさきました。

あるとき、村人の一人がこう言いました。

「おにというのは、みんな悪さをするものだと思っていたが、赤おにさんはまるでちがうねえ。」

「うん、そうだ。らんぼう者の青おにとは、ぜんぜんちがう。」

「ところで、青おにのやつ、最近、とんとすがたを見ないなあ。」

「心やさしく力もち、わしらの赤おにさんのことが、よっぱどこわいんだらうよ。」

「あっはっは、そうとも、そうとも。」

——ちがう、ちがうんだ。

青おにはわたしのために……。

村人たちの話を聞きながら、赤おにの心ははりさけそうでした。

そして、人間たちとなかよくすればするほど、

(このままでいいのだろうか、本当にこのままで……。)

という思いが、赤おにの中でどんどんふくらんでいきました。

ある雪の朝、赤おには青おにをさがしに、一人そつと旅に出ました。

どこの空か分かりません。空の下の草原に、ごろんと一つ

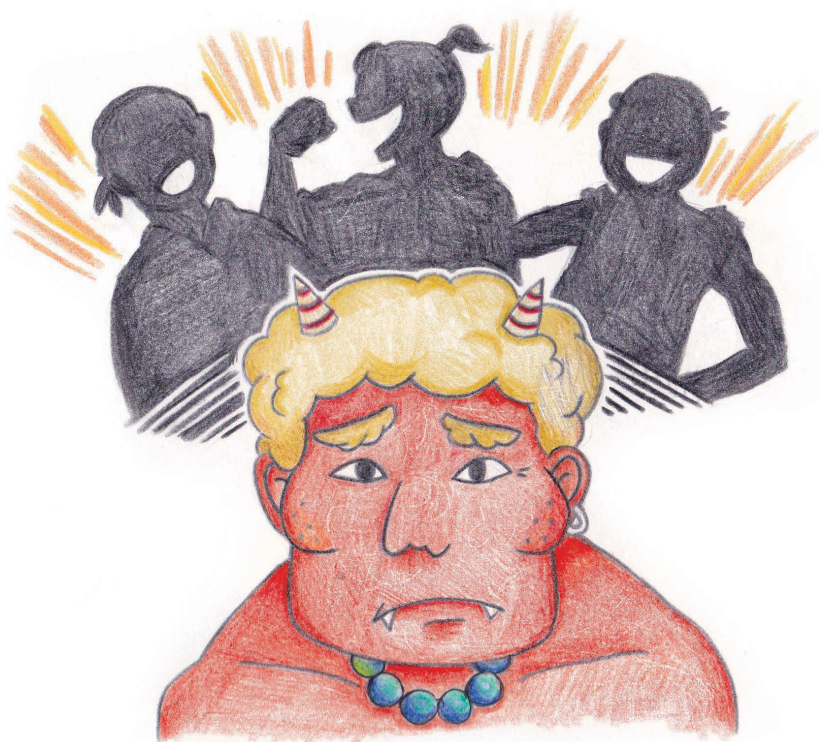
大きな岩がありました。その岩にこしをおろして、

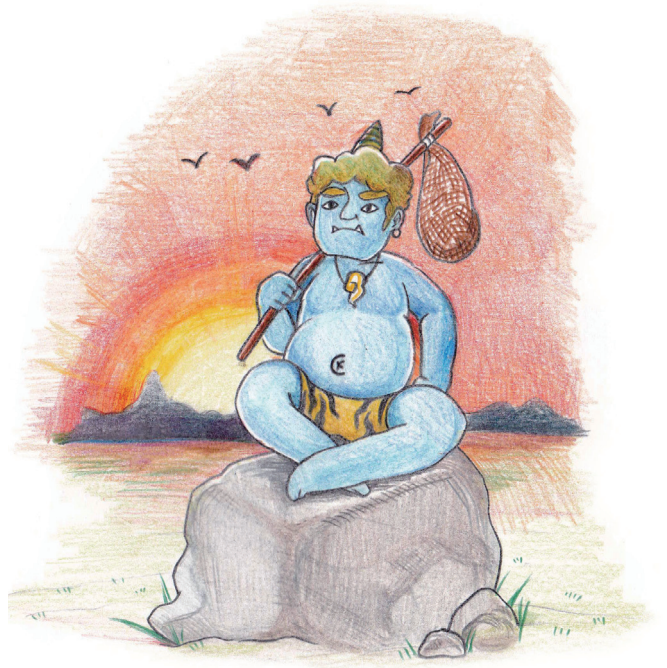
旅とちゅうの青おにが、休んでいました。

きっと赤おには、人間となかよくくらしているだろう。青おにはいつもそう思っていました。旅をつづける青おにには、友だちは一人もいませんでした。

真っ赤な夕やけ雲をじっと見ているうちに、青おには、赤おにのことが急に気になりました。

「ぼくは赤おにのためを考えて一しばいうった。人間はころつとだまされ、赤おにを信用したにちがない。ぼくは赤おにが人間にうたがわれないよう、こうして旅に出た。でも、赤おにのために本当によかったのか……」





青おには、何度も何度も、（本当によかったのか）と心の中できりかえしました。

青おには、赤おにのことが心配になって、いてもたってもいられなくなりました。そして、けわしい山をいくつも登り、深い谷をいくつもこえて、とうとう赤おにの家のそばまでやって来ました。

赤おにの家には夜だというのに明かりが見えません。青おにはそっと近づきました。家の戸はかたくしまっています。戸口に紙がはっていました。そして、何か字が書いてありました。

月明かりをたよりに、一文字、一文字、青おにはそれを読みました。

人間ノ ミナサン、今マデ ナカヨクシテクレテ アリガトウ。 ワタシハ
ミナサンニ 本当ノ コトヲ ハナサナケレバ ナリマセン。 青オニハ ワタ
シガ 人間ト ナカヨク ナルタメニ ワザト ワタシニ ナグラレタ。 ソシ
テ、人間ニ ウタガワレナイヨウ、ワタシニ ダマツテ スガタヲ ケシタノ
デス。

ミナサンヲ ダマシテ ゴメンナサイ。ナカヨクナレバナルホド、ウレシカッタ
ケレド、ドコカ 心ガ イタムコトニ 氣ガツキマシタ。

デモ、人間ト 友ダチニ ナリタイトイウ 氣持チニ、ウソハ
アリマセン。ドウカ ワカッテ クダサイ。

ワタシハ 本当ノ 友ダチ、青オニヲ サガス 旅ニ 出ルコトニシマシタ。
ナガイ ナガイ 旅ニ ナルデシヨウ。ワタシハ イツデモミナサンヲ ワスレ
マセン。

オゲンキデ、サヨウナラ。

赤オニ

青おには、戸に手をかけて、じっと目をとじました。

月の光が、青おにをしずかにてらしていました。

(和井内 良樹 作)

赤おにと青おに

(中学年 2-(3))

(1) ねらい

お互いに理解し合う大切さを知って、友達との信頼を深めようとする心情を育てる。

(2) 資料の特質

青おにが赤おにとの友情についてどう考えているのか、子どもに青おにの心情に迫らせたいと考えた。人間といつまでも仲良く暮らすことを願う一方、「赤おにとって本当によかったのか・・・」と青おにが自分を振り返る場面を設定することによって、友達を思いやると同時に深く理解することの大切さに気づかせたいと考えた。

(3) 展開例

- 1 友達関係について振り返る。
- 2 資料「赤おにと青おに」を読んで話し合う。
 - ①旅に出るとき、赤おにはどんなことを心の中で思ったか。
 - ・自分のために青おにに迷惑をかけていいのか。
 - ②「赤おにとって本当によかったのか・・・」とつぶやきながら、青おにはどんなことを考えたか。
 - ・本当のことを言わないですっと仲良くできるのかな。
 - ・人間と暮らすことがいいことなのかな。
 - ③赤おにの手紙を読んで、青おにはどんな気持ちだったか。
 - ・赤おにのことをもっとわかっていればよかった。
- 3 自分へのアドバイスをワークシートに書いて発表し合う。
- 4 教師の話を聞く。
 - 友達と理解し、信頼し合うことのよさについてまとめる

(4) 指導上の留意点及び工夫

展開例の3では、1で振り返った内容に対して「友達と心をかよわせるためにはどんなことが大切でしょう」と呼びかけ、アドバイスを書かせるようにする。

〔本文イラストは酒井桃華による〕